

令和元(2019)年度函館市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

令和元年度の給水人口は、前年度に比べ3,419人減少し、253,048人となり、給水普及率（給水区域内人口に対する給水人口の割合）は99.9%となった。

また、水道1日平均給水量は、前年度に比べ653立方メートル減少し、90,738立方メートルとなり、温泉1日供給量は、前年度に比べ40立方メートル減少し、3,549立方メートルとなったほか、年間販売電力量は、前年度に比べ128,584キロワット時減少し、1,377,009キロワット時となった。

事業収益については、給水需要の減少による水道料金の減少等により、前年度に比べ67,538,147円の収入減（1.4%減）となり、総額で4,613,528,859円となった。

事業費用については、減価償却費や企業債利息の減少等により、前年度に比べ207,678,612円の支出減（4.7%減）となり、総額で4,218,147,061円となった。

この結果、当年度の収支は、前年度に比べ140,140,465円増加し、395,381,798円の純利益を生じた。

建設改良事業については、赤川高区浄水場ろ過施設整備事業を令和元年度から2箇年の継続事業として着手したほか、原水及び浄水施設事業では導水管整備事業等を、配水施設事業では配水管整備事業等を、簡易水道施設事業では尾札部簡易水道配水管の更新に伴う実施設計業務等を、温泉供給設備事業では温泉供給管の布設替工事等を予定どおり施行した。

なお、令和元年10月1日からの消費税率改定に伴う水道料金の改定を令和元年12月以後の月分として徴収する料金から、温泉供給料金の改定を令和元年10月以後の月分として徴収する料金からそれぞれ実施した。